

制作/埼玉新聞社クロスメディア局 企画/埼玉県私立大学連絡協議会



前沢 浩子さん
獨協大学 学長
外国語学部英語学科教授



手嶋 将博さん
文教大学教育学部教授



太田 初音さん
越谷北高校新聞部1年



牛崎 琴葉さん
越谷北高校新聞部2年



矢島 大雅さん
不動岡高校新聞部2年



竹内 結菜さん
不動岡高校新聞部2年

わたしと「世界」

高校新聞部×大学教授

「共に生きる」を問い直す座談会

大学進学を控え、視野を広げていく高校生たちが、世界規模と地域密着の両方の視点から社会の共生について考えることは、これからの時代、ますます重要になっていきます。今回は「埼玉から世界へ」をテーマに、獨協大学の前沢浩子学長と文教大学の手嶋将博教授が、県立越谷北高校・県立不動岡高校の新聞部員と話し合いました。高校生たちが自分なりの“世界との向き合い方”を見いだす過程を、紙面でご紹介します。(中村未来)

埼玉県私立大学連絡協議会とは
埼玉県内に本部または関連施設を置く私立大学が加盟する組織。現在33大学が加盟し、そのネットワークを生かして地域社会との連携強化を図る。そのほか、高校・大学連携の一環として高校生が県内大学への進学を希望するような魅力ある地域づくりを目指している。



座談会は越谷北高校で行われた

社会の動きが加速度的に変化する現代、高校生たちは世界と日本の関係をどのように捉えているのでしょうか。埼玉県内でも多様な文化交流が進む中、地域の特性やグローバルな視点をどう受け止めているのでしょうか。異文化理解の実験を軸に、大学での学びや将来の夢、埼玉から世界へ羽ばたくための思いを語り合いました。

大学選択 重視するのは

矢島 新聞部の活動を通して色々な興味関心が湧きました。大学選びでは、学べることや学部を重視したいです。

太田 私も大学では自分の興味のある分野を学びたいと思っています。

牛崎 新聞部で模擬法廷を見学して、それから法律に興味を持ち、今は法学部で学びたいという軸で大学を探しています。

前沢 大学は一つ一つ、こういう分野に強いとか建学の理念や歴史が異なっていて、そこは一つ選ぶポイントかもしれませんね。オンラインキャンパスなどに実際に行くことが決まっていなくても、自分の目で相性を確かめられるかもかもしれません。

矢島 実際にいくつもの大学を見ましたが、私立大学は魅力的な施設が多いです。カフェや図書館など大学によってそれぞれ違うので、どこが自分に合っているのかの1つの指針になっています。

手嶋 自分が4年間学ぶのに良い場所かな、と考えてみてほしいです。街の様子も、大学の雰囲気や学生たちによって形成される場所がある。どんな先輩がいるのか、こういう先輩になりたいと思うことも重要です。

竹内 私は学びたいことが多すぎて、色々な大学を調べましたが行きたいと思う大学も多く、すごく迷っています。また一番学びたいことが決まっていなくてもいいんです。

手嶋 興味関心はふとした瞬間に出ることがあります。何かきっかけがあればいいですね。

身近な多文化共生

前沢 多文化共生って難しく聞けるけれど、20〜30年前に比べて日本に住む海外出身の方はぐっと増えました。課題もあるけれど、多様性は増えていくまっくいて、その部分も多岐にわたっています。社会は常に進化し続けていると感じます。

手嶋 互いが理解し合っている、人と人としてつながりやすいですね。

牛崎 私は去年の夏、海外研修でオーストラリアに行きました。たった2週間でしたが、食事の違い、過度な節水など当たり前にあるものがなかったことに驚きを感じました。異文化を知るってすごく大事だと思いました。日本にもオーストラリアにも良い文化がたくさんあり、それを否定するわけではなく、受け入れるのに時間がかかったなと思いました。

前沢 また行ってみたいですね。異文化を知るってすごく大事だと思いました。日本にもオーストラリアにも良い文化がたくさんあり、それを否定するわけではなく、受け入れるのに時間がかかったなと思いました。

矢島 僕は中学時代にイスラム教の友人がいました。僕たちの生まれた時代は、すでに海外とのつながりも増えてきていた感覚です。スカート(ヒジャブ)をかぶっていたり、見た目の違いはありましたが気にすることはなかったです。食の文化が違っていたので、むしろ異なる文化が面白いと感じていました。言葉も通じず、お互いに分かり合える部分が多かったのが大きいかもしれません。

竹内 最近ニュースで「日本人ファースト」という言葉も飛び交っています。ネットの情報だけを信じた一方的で過激な意見も多いと感じています。本当に当事者の意見を聞いていないのかな。この座談会でも自分が知らないことをたくさん知ったので、聞くことが大切だと感じました。

手嶋 異文化理解は、自分自身も多文化共生の主体として生きていくことが大切です。自分自身も多文化共生の主体として生きていくことが大切です。

触れるほど、近づく 異文化理解



和気あいあいとした雰囲気でも語り合う教授と高校生ら

分の意見をしっかりと持っていて、刺激を受けました。こういう機会に意見交換ができて、楽しかったです。大学選びに向けても、こういった活動の一つが無駄にならないこと何もないと思って頑張っていきたいです。

牛崎 座談会で話していて、自分の考え方に色々な視点が加わりました。言語が違っても「違い」が表面化し過ぎていると思えます。グローバル化が進んでいる時代だからこそ、自分の軸を持つことも大事だけど、その中で相手が何を求めているのか思いやる気持ちも大事だなと思いました。

矢島 人と人が衝突する時、一対一だと解決できることが多いと感じています。今、埼玉でも起きている外国人排斥の過激な動きなどは、グループとして勝手にアイデンティティに名前を付けてしまっている部分もあると思います。まずは友だちを一人づつ、一対一で話してみたらほとんどの人は仲良くなれると思うので、その意識が大事かなと思います。

手嶋 イメージに引っ張られている部分がありますよね。この人たちは怖い人なのかな?って。やっぱり自分の目と耳で、実際に確認してみることが大事ですね。

太田 多文化共生について、自分がどう考えているのか皆さんの意見を聞きながら、対面で話すことで改めて考え直すことができました。自分の考え方が、社会の風潮に影響されていることにも気が付きました。自身の意見を持つことも大切にして、これからの生活や、大学、社会に出ても色々な人と関わることを恐れず、挑戦していきたいです。

手嶋 大学で仕事に直結するような実学的なことか、あるいは興味関心のある分野を学ぶのか。そんな選択の中で、私は、大学で学ぶ意義はたくさんの人に触れられる機会があることだと思っています。そこに自分の世界を広げるきっかけが常に開いているので、ぜひこれからも意識してほしいです。ありがとうございます。

前沢 たくさんの海外の本を読んだり、自分で研究して論文を書いたりしても、その国に1人の友人がいるかいないかは大きな違いです。日本以外の場所に1人でも友だちがいたら、それだけで十分、国際人だしグローバル人材だと学生たちに伝えています。実際に触れてみることで、それが多様性や異文化理解への第一歩になります。ぜひ挑戦してみてください。

竹内 同世代の人たちが多文化共生などの難しいテーマについて自分

出ていることがあり、何がきっかけになるかわかりません。心配しなくて大丈夫。今までやってきたことは無駄にならず、巡り巡って自分に返ってきますよ。皆さんは、新聞部で埼玉の問題もリアルに捉えられる。学問的にも、自分の地元・埼玉を知っていることや足元を見られる視点は役に立ちますよ。

しなかったら、共生、仲良く暮らすのは難しいなと思います。**太田** 自分の意見ばかり相手に伝えるのではなく、お互いになれるだけ寛容に、相手を否定せずに受け入れる努力が理解につながると思います。文化や価値観は違いますが、共通点を見つけてあげると、実は共通点が目につくことが大事だと思えます。感謝の気持ちやうれい感情とか、そういった点に目を向けて歩み寄っていきたいです。

前沢 今は世界中のどこにいても、同じ世代間で同じような興味関心・課題を持っていますよね。それに比べると、私と高校生の皆さんのほうがよほど、異文化。日本のアニメなども世界中で愛されている。文化というのは地域ごとに分かれているわけではなく、世代に表れることもあって、どんなに離れた地域の人たちでも、いくらかでも共通点は見いだせると思います。